特42
879

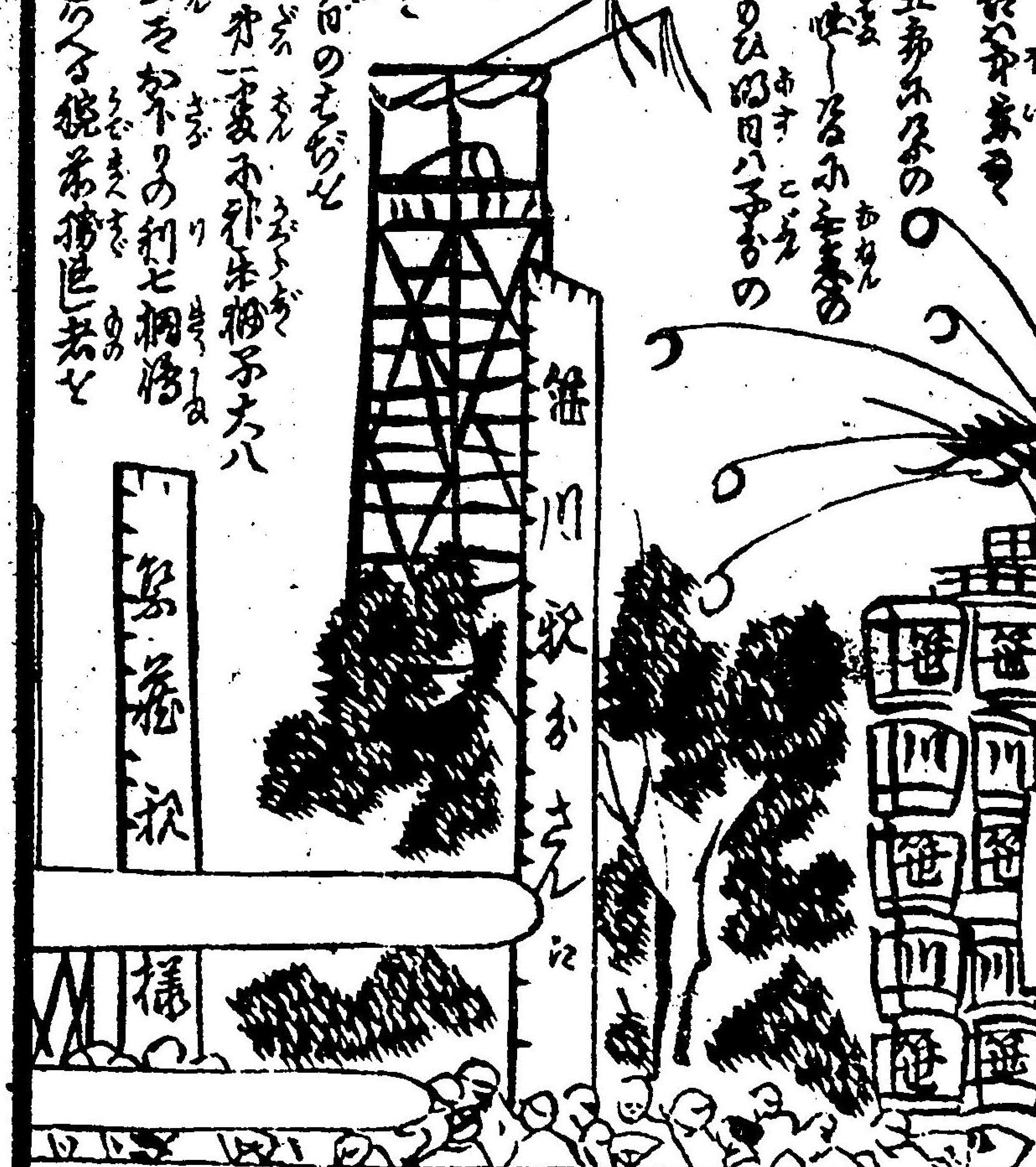
○四の海浪も物なき天代
ホトヽギスで保多浪の家
に男もまづく老共の
中ホ孤子五郎
義とそを
名もそなき
釈多あり」ガ子
かも多く用あきたり
を中ホ風景の助五郎と
りホ老あり釈多丸て浪り
自ら子分と多くあり
弱きと助け強きと摩と
人
生田
尚義
と捕ひ
旅人の
難儀を救ひ
ようハ州方
の風俗を図へ

（つゞき）かし村ら直る
その愛蝶の家来翁と云ふ家老あり
あり交八器
御源氏奔とぞ
中国の浪人 [illegible] が此笹川へ来りて農家の娘を娶り
[illegible] を懐妊せしに [illegible] 家来
叶ひし [illegible] 浪く
⊠つゞきに相撲を [illegible] 久 [illegible] を業として [illegible] と [illegible] 或日此笹川の親分の [illegible]
◐助り再 [illegible] せし [illegible] 仁蔵は [illegible] 家 [illegible] 親分と [illegible] 村 [illegible] の [illegible] 力と [illegible] の [illegible]

家の [illegible] を [illegible] へ [illegible]
[illegible]
せしを [illegible]
あく [illegible] が [illegible]
かくて [illegible] につく⊠
[illegible] 引つて [illegible] を [illegible] の [illegible] を名代として [illegible] を引つ [illegible]
[illegible] 繁蔵 [illegible] の [illegible] 大勢の子分に [illegible]
[illegible] 笹川へ [illegible] ◐

次へ

行司 政吉ハ再度まで
婦り助五郎に対の○
勝負を為しなるに未だ
ついに当日八番目の
内より
銘々の
扨さし
若も撰く
如し今日の手びかを
かぐんど第一番に第十番に大八
荒町勤を務りの利を掴み
頭れなどうる銘々勝ち越し者を



▲なつける
対に笹川の
一子が勢
力家方
この先に
見物の耳
を欹て気合
せおりしが
落れなせに
銘々者り今
大八が大出
を惜しと

引つ返し自分より
笹川へ寄り添て
取組む内最早方へ
昨日と違ひ大きに勝を
取しが助五郎ハ惣並に
入て見るる手の内笹川方ハ
成ての出合人
支払うに掛る
に掛のけらし双方向けて
見ゆるを大八云儀に
跳ねかへり取り勝負ハ
勝ちあうと侍ども人に▲

最もきつく
と土俵へ
立入ては
ねのい扶揆
して見提
たりまひに
若ら取有
力の上手
者がしが投
合せしが勢力ハ大八
が銘を見よとなえ
引しが足を払ひて [次へ]

勢力富五郎
助五郎が右場
政吉
助五郎が

大八
助五郎
十月市場へ

つぎ　去頃と立花門の奴原はりあひ用ふるぜん
と大勢集を拵める代りに笹門へ
はせ来る繁藏　助五郎
の一味か小南左助へ
云ふ代、去の去頃へ
怪器の奴原が先生
の逆服と隠さん為の
見べき主人を行るの者
ありと云るを反用衆
五人内の去番人
左助がいひ
とあるを
繁藏　怒りて垂さん
勢力先ちゆるか
七人と
俊人先
繁ふ子助
主家が妻宅
切入るを助
五番い繁ふを
と撥て飛散

し考へと
あ人去頃へ
ゆしか
義て
大八　繁藏
るしるる
るるれへ
大勢より
て打てき
悪にはして
逃出さるあ
人繁藏逃
撥りしへ
頃屋の分限
この盗へ
金子
五十四
と備へ
笹川へ
えと七
人
引外途
中山へ
皮へ
より
間の
安と
あ子沢へ

吉十藏

助五郎

洲の崎の政吉

小沢の友次

飯岡助五郎

明治十三年二月四日御届

編輯兼出版人　東京日本橋區茅場町二番地　大西庄之助

價五厘

延
寿
堂